



初 夢 随 想



国境を超える…ということ

宇部支部 古川 裕之

「国境を越える」・・・そのことに興味を持つのは、“島国”に暮らしているからだと思う。日本という国が四方を海に囲まれた孤立した地理関係にあることは、日本独特の価値観を形成する大きな要因だったと理解している。そして、“島国”であることが、日本人の意識にも大きな影響を与えている。

初めての国境越えは空路。1981年、Los Angeles (USA) 行きの大韓航空機は、韓国経由だった。韓国への空のどこかが初めての国境。1983年、再び、Los Angeles (USA) に行く機会があった。滞在中、路線バスを乗り間違えて、スペイン語の看板が並ぶ小さな町に到着した。アメリカ国内の“MEXICO”だった。国境が地続きであるというのは、そういうことなんだと感じた。

2005年、San Diego (USA) に行く機会があった。メキシコ国境近くまで路面電車で移動し、Tijuana (Mexico) に向けて徒歩で国境を越えた。味をしめて、2007年にはNARITAから直接Tijuanaに向かい、大きなスーツケースを引きずりながら、徒歩でUSAとの国境を越えた。国境を超える瞬間、とても興奮した。国境の上に立ち、何度も行ったり来たりした。新鮮な体験だった。

空路と陸路(徒歩)での国境越えの次は、鉄道での国境越えしかないと思った。2012年、Amsterdam (Netherland) に出かけた際、それが実現した。まず、ドイツとの国境に近いVenloに向かった。そして、国境を超える国際列車に乗車してMönchengladbach Hbf (Deutschland) に到着。しかし、どこが国境な

のかかわらないまま、列車は国境を通過した。オランダに戻るときは、ビデオカメラを回した。やはり、どこが国境なのかかわらなかった。続いて、ベルギーとの国境に近いMaastrichtに向かった。今度は、地方鉄道のような古い車両に乗り換え、Vice (Belgium) に到着。こちらも、わからないまま国境を越えた。結果として、1日で2つの国境を越えた。心が浮き立つ貴重な体験だった。

そして、最後は、海路での国境越えが残っている。まだ国境というものがなかった時代、この島と大陸との間の交通手段は海路であった。幸い、ここ山口県は、下関から韓国(釜山)に向けて「関釜フェリー」が運行している。2013年は、海路での国境越えに挑戦しよう。



国境を股にかけたスーツケース 2007年1月撮影

4 回目の年男

防府支部 柳 稔 尚

今回で4回目の年男を迎えました。毎年毎年、一年が経過するのが早く感じるようになってきました。

次の年男は還暦！ はーって感じです。



山口県薬剤師会雑誌

YPジャーナル

1

2013
No. 413



●目次●

新年のご挨拶	1
年男・年女	7
会務報告	14
活動報告	16
九山大会報告①②③	17
病薬だより①②③④	20
委員会報告	28
「ダーツの“わ”」(114)	29
山口赤十字病院（山口支部） 内田 航	
バトンタッチ（257）	30
茶道の魅力	
宇部興産株式会社中央病院（宇部支部） 加藤 洋美	
支部だより①②	31
いきいきわくわくにっこり 市民健康スポーツのつどい	
健康スポーツフェスタ2012年	
岩国支部	

介護認定審査会と在宅医療参加への取り組み

柳井支部	
Drug View	33
会員のひろば	35
両親の突然の入院介護その4	河口美乃里
おすすめホームページ（147）	36
ご案内①②③④	37
お知らせ	42
集合研修のお知らせ	51
保険薬局の指定	54
会員の動き	55
調剤報酬	59
出版物の斡旋	60
ほっとコーナー	61
県薬日誌	62
編集後記	63